

<資料2>

HCV 母子感染防止に予定帝王切開が否定的文献

Prospective study of mother-to-infant transmission of hepatitis C virus

H Tajiri, et al (Pediatr Infect Dis J, 2001;20:10-14)

<要約>16800人の妊婦HCV抗体スクリーニングで154人が陽性であった。141人の母親が登録し、147人出生したがドロップアウトし、114例の児が検討できた。分娩様式では、経膈分娩8.9%(8/90例)VS帝切4.2%(1/24例)であったが有意な差はなかった。高ウイルス群では有意に高率に母子感染した。

A significant sex - but not elective cesarean section-effect on mother-to-child transmission of hepatitis C virus infection. European Paediatric Hepatitis C Virus Network (JID 2005;192:1872-1879)

<対象>33施設(イタリア、スペイン、ドイツ、アイルランド、UK、ノルウェー、スウェーデン)1787組の母子が登録されたが児のHCV感染チェックできた1479例で検討。但し、母親のヴィレミアの有無、ウイルス量については全例には測定できなかった。また、208例がHIVにも感染しており、抗レトロウイルス剤の投与、ほぼ全例が予定帝王切開された。

<成績>HCV母子感染率は、予定帝王切開7.3%(35/480例)と経膈・緊急定帝王切開5.4%(50/924例)には有意差なく、HIV感染8.7%(18/208例)と非感染5.5%(65/1183例)は有意差を認めた。また、HIV感染合併では、多剤抗レトロウイルス投与は治療なしあるいは単剤投与よりHCV母子感染率は有意に減少した。(28%29/103VS44%36/81)母体のウイルス量が調査できた症例での検討では、ヴィレミア母体は6.2%(25/403例)で非ヴィレミア母体の3.3%(5/153例)より有意に高率であった。

<考案>本研究で予定帝王切開のHCV母子感染率に差を認めなかったのは母子感染率が高いHIV感染の分娩方法に予定帝王切開が選択されたためであろう。HIV感染でも抗レトロウイルス多剤使用群では、HIVの母子感染同様にHCV母子感染に帝切による防止効果は認めなかった。本研究でも有意差はないが予定帝切によるHCV母子感染予防効果は60%(6%→2.5%)あると考えられた。

*本研究のまとめとしてEPHNはレベルBで「予定帝王切開はHCV母子感染防止のために推奨すべきではない」としている。

Lucy Pembrey, Marie-Louise Newell, Pier-Angelo Tovo, the EPHN Collaborators. The management of HCV infected pregnant women and their children European paediatric HCV network (Journal of Hepatology 2005,43:515-525)